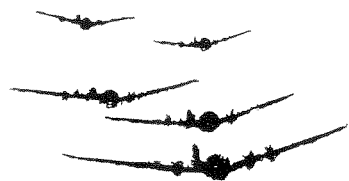


語り継ぐ
戦争の体験
—平和への祈りをこめて—





平和都市宣言の碑

平和都市宣言決議

真の恒久平和は、人類共通の念願である。

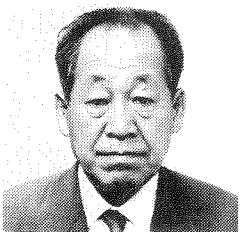
しかるに、核軍備の拡張は依然として強まり、世界平和、人類の生存に深刻な脅威をもたらしている。我々は、世界唯一の核被爆国民として、核兵器の恐ろしさ、被爆者の今なお続く苦しみをかみしめ、この地球に再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返させてはならない。

ここに我々は、日本国憲法に掲げられた恒久平和の理念を生かし、継承していくことが我々に課せられた責務である。

よって非核三原則の完全な遵守を求め、あらゆる国の核兵器の廃絶と軍縮を強く訴え、平和都市たることを厳粛に宣言する。

昭和60年7月1日

京都府田辺町議会



発刊にあたって

田辺町平和都市推進協議会長

田辺町長 原田 喜代次

今年は、太平洋戦争の終結から47年、年号も昭和から平成に変わり4年たち、わが国は繁栄を続け、日常の生活に戦争の傷跡は見えなくなってきました。また、過去に不幸な歴史があった中国との国交が回復して、ちょうど20周年になります。

一方、国際的に平和への貢献が求められる中で、過日の国会においてPKO法が可決になり、自衛隊による国外での活動が新たな段階に入りました。

さて、暑い夏を迎え、戦争をふり返り、現在の平和をかみしめる人々も次第に高齢となってきました。私は、今こそ、平和の意味を探り、戦争の体験を語り継ぐことが大切だと考えております。

田辺町議会で、昭和六十年七月に「平和都市宣言」を決議され、本協議会でも田辺町などとともに、世界の恒久平和を願う昭和六十二年から「平和のつどい・平和展」を開催し、平和の重要性を訴えてまいっているところであります。

本協議会では、平和の尊さと二度と繰り返してはならない戦争の悲惨さを後世に伝えていくため「語り継ぐ戦争の体験―平和への祈りをこめて」を発行することになりました。戦争体験を風化させないためにも、世代をこえて平和、戦争を考える資料として活用していただきたく思います。

この文集の発行にあたり、七十七人の住民のみなさんから戦争体験文や貴重な写真をご提供いただきました。厚くお礼申し上げます。また、編集には、本協議会の文集刊行委員会作業部会の方々には、大変なご苦勞をおかけしました。深く感謝の意を表します。

平成四年八月

